

天使

PER CARITATEM
AD VERITATEM

vol.37 August 2024

T E N S H I C O L L E G E



新たな経験 ～初めての合唱コンクール～

栄養学科3年 佐藤 優羽

今年は新型コロナウイルスにより中止されていた合唱コンクールが5年ぶりに開催されました。私たち栄養学科3年生は、12名でステージに上がらせていただき、「サザンカ」を歌いました。

私は今回、合唱コンクール責任者を務めました。3年生にして初めての行事で、右も左もわからないまま練習がスタートしました。練習開始から当日までは3週間弱、回数にして6回と決して十分とはいえない限られた練習時間でなんとか形にしなければならなかったため、どのように練習したら良いかととても悩みました。

練習では、YouTubeで音源聴き、パートごとに練習し、合わせる、というのをひたすら繰り返しました。歌詞は各々覚えてくるなど、少ない時間を有効活用できるように努めました。

本番当日は、皆の個性を活かそうという意味で衣装をカラフルにし、緊張していましたが後は楽しむことだけを考えようと意識して挑みました。結果として、同総会賞をいただくことができました。

合唱コンクールを通して、課題を見つけて解決しようと努力することの大切さを学びました。また、チーム内の一人一人が皆のために動くという意識を持つことで円滑に進められることを実感しました。今回の経験を学校生活でも活かしていきたいと思います。



クラスの団結と 合唱コンクール

看護学科2年 佐々木 怜奈

5年ぶりに開催され、初めて参加した合唱コンクールは、大学生活の中でもとても思い出深い行事となりました。合唱コンクールの話を聞いた時は、「大学生になってまで合唱をするのか?」と正直戸惑いがあり、合唱委員としての役割を果たせるか不安でした。しかし、合唱曲やパートの決定、練習にクラス全員が全力で取り組んでくれたことで、合唱コンクールに対する意欲が湧いてきました。2年生になり演習や課題が増え、空きコマが少なく練習時間に制限があった中でも、皆さんが積極的に練習に参加してくれました。練習を重ねることに、合唱の完成度が上がるだけでなく、クラス全体の団結力も高まっていきました。本番は、トップバッターというプレッシャーもあり、大変緊張しましたが、3部パートそれぞれの美しい音色が体育館中に響き渡りました。これまでで最高の合唱を披露し、優勝できたことは本当に嬉しかったです。クラス全員で力を合わせ、練習してきた時間は大学生活でのかけがえのない青春となるでしょう。

今回の合唱コンクールを通して、ひとつのことにクラス全員が真剣に、全力で向き合い達成することができたことで、団結力が高まりました。この団結力を生かし、演習や実習、課題など、大学生活ならではの苦楽をクラスで乗り越えていきたいと思っています。

新任教員紹介

障害を持つ人の生活を支える看護



看護学科教授 神島 滋子

はじめまして。私の天使大学とのかかわりは臨床で実習生を受け入れたときにはじまります。そのご縁で、その後も実習インストラクターをしていました。天使大学の学生たちの素直さ、おおらかさ、やさしさが大好きです。

看護師としては長く脳神経疾患を持つ患者・家族への看護を行ってきました。脳神経というのは未知のことも多く、特に高次脳機能障害の不思議さに魅入られました。脳卒中などの疾患では脳のどの部分に病巣があるかによって、教科書なおおよその症状の見当はつきます。しかし、患者それぞれに障害の状態は異なります。そして自らの状況をどのように感じるか、どのように対応し「リハビリテーション」するかもその人次第で

す。その人に合わせたオーダーメイドのケア（看護）が必要なのです。私は看護師として障害とともに生きる人たちへの支援をどうしたらいいのかをずっと考えてきました。それが私の研究活動の源になっています。

教育者としては、誰一人として同じ人がいない人と関わる看護師を育成するためには学生が「自ら考える力」を育てたいと思っています。学生はよく「これが正解なのか？」と心配しますが、〇か×かの二元論ではなくあいまいさにも対応できる寛容性をそなえ、基本的な知識を応用しながら新たな情報を求め、周囲と協力しつつこたえを探っていく思考力が求められます。看護という正解のない学問を楽しめるように育てほしいと心から思っています。

効果的な弾性着衣装着モデルの構築にむけて



看護学専攻教授 城丸 瑞恵

これまで昭和大学・札幌医科大学に勤務し、2024年4月に天使大学に着任しました。

学会の運営などで天使大学の教員の方々とご一緒にさせていただく機会があり、伝統ある天使大学の教員として仕事ができることを光栄に感じています。

私はこれまで急性・重症患者看護、成人看護学教育に関する研究と並行して手術後のがん患者の苦痛緩和に向けた看護について研究を行ってきました。現在は乳がん・婦人科がん術後患者が着用する弾性着衣に着目して、術後リンパ浮腫を発症した患者と多職種チームの連携・協働による弾性着衣の効果的な装着方法の検証とモデルの構築について研究を進めています。モデル構築の前段として、乳がん・婦人科がんの手術後にリンパ浮腫を発症した

患者の方々に着用による影響について調査を実施しました。多くの方に回答をいただきましたが、自由回答をみると乳がん・婦人科がんの方々を感じる苦痛・負担の共通性と特異性がみられました。共通する回答として「着用の煩わしさ」「弾性着衣の費用が高い」など、特異的な点として乳がん手術後に弾性着衣を使用した方は「着用時、腕のつけねの部分がかまくれる」など、婦人科がん手術後に弾性着衣を使用した方は「歩く仕事なので弾性着衣が下がってきて直すのが大変」などの回答がありました。「着用の煩わしさ」を改善するためには、疾患・手術部位による個別の着用時の課題の解決が必要であり、多職種で検討しています。今後は、治療に必要な弾性着衣によって生じる苦痛が緩和される装着方法を提案したいと考えています。

共分散構築分析を用いたモデルを利用したケアの研究



看護学専攻教授 中村 由美子

天使短期大学専攻科の卒業生です。卒業後、聖路加国際病院看護師、東京都足立区足立保健所保健婦での実務経験のあと、東京都、神奈川県、故郷である青森県で看護基礎教育・大学院教育に携わりました。現在は天使大学大学院看護学専攻科特任教授です。

専門は、子どもや家族を対象とした小児看護学・家族看護を専門としています。研究テーマは、日本でも多いとされる地域における小児肥満（太り気味）の予防や、最近法律が作られた吸引（自分でたんをだせない時に医療機械などで吸う）など医療的ケアが必要な子どものケアについて研究しています。

研究概要：現在は科研費という国からの研究費をいただき、“AI（人工知能）を用いた育児不安の解消”や“保育士を対象としたe-learningを用いた医療的ケアの学習プログラムの開発”などの研究を行っています。共分散構造分析を用いてモデルを作るこ

とからケアに生かしています。育児不安など産後のうつ病予防に対応したシステム作りにも取り組んでいます。研究結果をケアや教育に生かすことができるので、研究は好きです。

研究成果の活用：肥満予防については、一部地域ではありますが、学校教育に生かしてもらっています。医療的ケアについては、約20年間、故郷である青森県の医療的ケア児のための研修で教員向けの教育を続けています。最近では、看護に家族ケアを取り入れる家族システム看護研究会も有志で取り組んでいます。



生活行動回復の看護の構築



看護学専攻教授 林 裕子

4月より看護学専攻科看護学専攻に着任いたしました。主に博士課程後期の講義と研究指導を担当いたします。看護学は学問として日本の中で認知されたのは、他の学問と比べると最近の出来事です。そのため、看護学が学問として確立するためには、多くの研究者の育成が必須です。そして、看護学は臨床経験することで新たな研究の種が発見されるため、大学を卒業し、臨床で働きながら大学院を目指す方も大勢おられます。

私も臨床経験が数年あり、その臨床経験を学問として体系化することを旨として、博士課程に進みました。私の研究は、脳損傷による意識障害患者が自ら生活するための看護の方法を脳生理学

の基盤に開発する研究です。そして現在は、この研究を老若を問わず寝たきりの状態となりやすい方やその状態にある方への看護として、寝たきりの予防や生活行動の回復を目指した看護を臨床応用として実践しております。そして、この研究がさらに発展し臨床応用するために、多くの臨床で看護を実践する仲間や研究する仲間を増やしなから、あらゆる角度から実践や研究を進めております。

看護は、対象者の人生に大きな影響を及ぼす力があります。今後も看護が、多くの方の健康に寄与し、看護の対象者の希望であり続けるために、多くの若き臨床実践者や研究者たちへの応援者として自己研鑽に努めたいと思います。



高齢者のためのヒューマン・ケアリング学研究

看護学専攻教授 松田 ひとみ

昨年4月から天使大学の修士課程で研究方法論特論の非常勤講師となり、本年4月から看護学専攻科の特任教員として着任しました。私は天使大学の前身である天使女子短期大学の専攻科を卒業しました。今も名残のある旧い校舎がとても懐かしく、シスターや友人との交流の数々を思い出しています。当時は天使病院での分娩件数も道内では一番を誇り、実習でも10日くらいで15件の分娩介助を経験しました。私は3つの資格の選択肢の中から、最初は助産師の業務に就きました。その後看護教育に携わりましたが、時代は着実に超高齢社会に向かっており、その要請を受けたかのように、私の研究は高齢者に注目したヒューマン・ケアリングに取り組みました。私がこの経緯を説明する時に、要節ではなく「ゆりかごから高齢者

まで」と守備範囲の広さを紹介しています。2度目に就任した大学は大きな組織でしたが、このスタンスのもとに学際的な人間総合科学研究科に所属しました。指導する大学院生（修士課程、博士課程）は、看護師、薬剤師、作業療法士、音楽療法士などの有資格者が多く、国内外の学生たちとフィールドワーク（沖縄県、台湾、ドイツやロシア）を重視したデータ収集と交流を深めました。私の研究の成果は、自律神経活動の測定と評価により生理学的に検証した「高齢者の楽しい会話が睡眠の質を向上させること」や「起立性低血圧を予防するためのオノマトベ効果」です。多くの方々に活用していただきたい内容ですが、普及するための課題を残しています。またロシアでの調査活動を通して貢献したいこともあり、平和な時代の訪れを願っています。つか大学院生たちと赴きたいと考えています。



これまでの経験を活かして

栄養学科助手 土屋 さくら

私は、大学入学時から臨床の現場で働くことに興味があり、天使大学卒業後は病院へ就職しました。様々な診療科の栄養管理や直営給食・委託給食の管理に携わってきましたが、その中で、患者様に関わる時間が多かったのは回復期リハビリテーション病棟の専任管理栄養士をしていた時です。回診やカンファレンスへの参加、ミールラウンドをしていると多職種から食事や栄養に関わる多くの相談をしてもらいました。「食事が摂れていない時のリハビリ負担量はどうしたら良いか」「補食の味が苦手だと話しているけどどうやったら食べてもらえるか」「間食は何を勧めたら良いか」など内容は様々です。管理栄養士は常に患者様のそばにいるわけではないため、投げかけていただいた問題点にどう向き合っているかを多職種の方々と相談する毎日でした。例えば、過体重の患者様が間食をしないようNs・リハスタッフ・管理栄養士が連携して声かけすることで患者様の意識が定着し、減量に成功したとい

うこともありました。このように管理栄養士だけの働きかけでは足りない部分を、多職種で補っていただいた経験は数えきれないほどあります。そして、管理栄養士が患者様に関わる時間が増えると、自然に多職種の方々から相談をされる機会が増え、病院で働くことのやりがいを感じるようになりました。

この度、ご縁があり母校である天使大学に入職させていただきました。管理栄養士を目指す学生さんが専門性をもって活躍できる場所は様々です。様々な分野があるからこそ、幅広い場で専門性を活かすことができると思う反面、それぞれの分野で活躍し続けるためには、日々、学び続けなければならないと改めて強く感じます。卒業後、時間が経過しても在学時に学んだことはとても助けになります。学生さんには大学での学びを大切にしてもらいたいと思います。その学びのお手伝いができればと思っています。私自身も、大学という新たな環境で、これまでの経験を活かしつつこれまで以上に学んでいきたいです。



大学教育に思うこと

教養教育科教授 唐川 智幸

大学時代は「テンサイの馴化培養細胞について」を研究テーマとし、いわゆる組織培養の研究に没頭していました。大学院に入り「α-ガラクトシダーゼについて」と題して転移反応等を研究し、ラフィノースの生合成経路について研究していました。その後、高等学校の理科教員として、海外研修等で諸外国の教育について学び、現在、今般改訂された学習指導要領で、「社会に開かれた教育課程」として地域全体で児童生徒を育てることの重要性をテーマとした研究に専念しています。

ご承知の通り、小中学校では「総合的な学習の時間」が継続され、高等学校では「総合的な探究の時間」が新設されました。今後の

予測不可能な社会を生き抜く子どもたちにとって、「探究的な学び」は、これからの社会を生き抜く力として最も重要な力といえます。社会が抱える課題を見だし、先行研究を調べ、仮説を立て、どのようにしたら課題が解決できるかを考える学習は、今後の社会に求められる力だと考えます。

現在の大学生の学びはどうでしょうか？ 入学試験に合格するため、与えられた知識をインプットし、それをアウトプットするといった学習に終始し、それぞれの学生がもっている他の人にはない特性が教師のファシリテートで伸長されていません。今後は、学生に大人としての責任を自覚させるとともに、日本を背負う一員として、講義等で対峙してゆきたいと考えています。



“助産師”とは、何をする人？ “私はNurse Midwife”

助産研究科教授 島田 啓子

みなさん、こんにちは。職業生命を結実しようというプランを立てていた時に、自分の職業転機の道標になった恩師の声かけて、北の大地に立つことになりました。

J. ルソーは著書『エミール』で、『人は二回この世に生まれ、一度目は（生命をもって）存在するため、二度目は性をもって生まれる～（中略）』と説きます。

私が学生の時に初めて出産介助をして生まれた児が小学生になり「自分がこの世に生まれた時、一番先に自分を抱っこしてくれ

た人は誰？」と母に問うたそうです。その母いわく助産学生の方よ～と母から聞いた子は遠方からある日、私の前に現れました。その彼は今、立派な仕事に就き羽田で活躍しています。成長の節目に私宛にメッセージが届き、今も「助産師」でいることに感慨深いものを覚えます。

助産師はMid + wife から成り、女性の傍にいて母児の生きる力を支える支援者です。「専門職大学院」として、全国から夢を抱く学生が集まりますので、「神の手」をもつエキスパート助産師の「技」を一緒に学んでみませんか。

助産研究科新任教員

助産研究科講師 椿 麻衣子

現在学んでいること（大学院） 看護研究の世界へようこそ。



看護学専攻博士前期課程小児看護領域論文コース1年 西村 香織

これは、今日届いた本を包みから取り出し開いた瞬間、目に飛び込んできたメッセージ。「新しい世界に足を踏み入れるのに必要なのは、その世界に特有の言語を学習すること、新しいルールを確認し適用すること、そして新しい経験を踏むことである。」と、著者は続けています。

入学後間もなく始まった研究方法論特論では、まさに「研究」の世界に「特有の言語」や「ルール」を丁寧に教えていただきました。久々の座学、テスト、課題提出など、全てが「新しい経験」で、この3か月を夢中で過ごしてきました。私は天使（短大時代）卒業生です。天使病院に看護師として就職後、大学での資格取得を経て養護教諭となり、札幌市立学校にて仕事を続けて来ました。昨年、本校CNSコースを卒業し活躍する友人から刺激を受け、久しぶりに尋ねた本校で素晴らしい先生方に出会い、改めて子どもの健康や看護について探究しようと決め、受験を経てこの春入学いたしました。共に学ぶ素敵な仲間達とも出会うことができ、リニューアルした母校に再び通学する機会に恵まれたことを心から幸運に感じております。

現在、小児看護学では、様々なテーマをもとにプレゼンとディスカッションを重ね、研究の準備を続けています。小児看護領域のテーマは多岐にわたり、議論してもし尽くせないほどですが、仲間が持ち寄る疑問や経験と先生が教えてくださることとが相乗効果を生み出し、毎

回有意義な時間となっています。今まで出会ってきた多くの児童生徒や多職種の皆さんから教えてもらった出来事のひとつひとつと再会し、また新たな知見を得たり、深めたりしながら、就業や人生経験を経て学ぶことの意義と楽しさを実感しています。

前述の本、「パース&グローブ 看護研究入門」は後期用の教科書です。次なる「新しい経験」にドキドキし、研究計画を構想しながらも、まずは目の前のプレゼン準備に全力で取り組んでいる、そんな今日この頃です。



授業での1コマ

現在の大学院での学び



栄養管理学専攻 博士前期課程1年 甫喜本 友花

私は天使大学卒業後、ドラッグストアで管理栄養士として1年間勤務し、大学院に入学しました。ドラッグストアでは地域の方々との関わりを通して、日々の食事の大切さを伝えると共に、一次予防として健康寿命をより延ばせるようアプローチをしてきました。その中で、既に疾患を持つ方に対しても食事変容のファーストステップとしての提案の選択肢を増やしたいと思うようになり、大学院進学を決めました。現在は、食後血糖上昇を抑制する方法として知られる「セカンドミール効果」に関連する、血糖と食物繊維の関係性を軸に文献での調査を行っています。最初はシンプルなメカニズムだと思っていましたが、文献を読み進めることにあらゆる要因が複雑に絡み合っていることが明らかになり、知識を深めることの楽しさと栄養の奥深さを日々感じています。

学部時代は、大学2年生の頃から新型コロナウイルスの蔓延により多くの授業がオンデマンドでの受講になりました。現在の授業はほとんど全てが対面で行われており、中でも栄養と看護の合同授業ではディスカッション形式が多いです。コロナ禍もZoomを使用したグループワークを行っていましたが、対面では意見交換が一層活発に行われているように感じます。様々な意見が授業の中で飛び交うため、考え方の柔軟性が育まれています。特に今年は同学年に社会人の方もおり、現場で働いているか

らこそその貴重な意見が聞くことができ、日々刺激を受けています。また、講義は少人数で行われるため、講師の方々には個々に合った詳細で励みになるフィードバックを下さり、毎回の授業が有意義に感じられます。

「学びたい」という思いだけで入学した私でしたが、同級生に恵まれたこともあり、想像以上の知識と思考力を身につけられ、入学を決断して良かったと心から思っています。これからも沢山の学びが待っていると思いますが、余すことなく活用して、患者様や社会に還元できる管理栄養士を目指したいです。



入学式後に

助産院での学び



助産研究科2年 原 琉衣奈

助産研究科での生活も最後の年となり、20名の仲間と素敵な助産師を目指して日々、勉学に励んでいます。

2年生の6月からは、静岡県で6週間、助産院実習をさせていただきました。助産院での実習はこれまでとはまた違った学びの連続で、とても充実した日々を送ることができました。

助産院では妊婦健診などにたくさんの時間をかけ、対象者の方とコミュニケーションをとる事で、助産師と対象者の方との間には十分な信頼関係が築かれていました。助産院で出産されたお母さんたちは、分娩体験を肯定的にとらえており、助産師のケアの質の高さと、対象者との信頼関係の重要性を学ぶことができました。

分娩の技術についても、今までとは違ったフリースタイルのお産や、医療介入がない自然なお産について学ぶことができ、新しい技をたくさん身に着けることができました。

お産の介助だけでなく、地域で働く助産師としての役割についても学ぶことができ、今後の自分のキャリアデザインを明確にする良い機会となりました。

残りの大学院生活では、卒業論文や国家試験などまだまだ忙しい日々が続きますが、今後も、この学びを活かしながら、自分が目指す助産師像に近づくことができるように、勉学に励んでいきたいです。



助産院にて



近くのバス停からの風景

2024年度 天使大学・北海道科学大学連携公開講座について



「いのちみつめて」をテーマに、医療、薬学、看護学、栄養学の各分野から、生活に役立つ情報をわかりやすく解説します。昨年度に引き続きYouTubeによるオンデマンド配信で実施します（事前の受講申込が必要です）。



○期間（予定）：2024年10月～12月

○申込方法：天使大学ホームページより申し込みを行ってください。

※申込ページは9月中旬頃 掲載予定

○講座内容

テーマ名 ※	講 師
健康の秘訣は良い姿勢	天使大学 看護栄養学部看護学科 服部 容子 教授
災害時の栄養と食事	天使大学 看護栄養学部栄養学科 吉田 真弓 准教授
母になるマリア様と現代の助産	天使大学 大学院助産研究科 中田 かおり 教授
薬学への招待 なぜ、薬剤師も医師と同じ質問をするの？	北海道科学大学 薬学部薬学科 水谷 怜子 講師
血液透析における臨床工学技士の役割	北海道科学大学 保健医療学部臨床工学科 相川 武司 講師

※テーマ名は一部変更になる場合があります。

現在学んでいること

私が大切にしていること



看護学科3年 竹井 諒

入学してから約2年が過ぎ、3年目に入りました。2年次の頃から増々と授業の内容は各領域の専門的なものになってきました。私が本学に入学してから大切にしていることは「積み重ね」と「根拠」です。

学年が上がっていくにつれて、取り組んでいかなければならない課題は増えていきます。特に、この3年生の時期は課題続きで、後期には8月から12月までの長期間にわたる臨地実習が始まってきます。この中では、1年次から学んできた基礎的なことは必ず必要になってくるし、2年次で学習する病気に関する内容も、3年次で行っている内容を積み重ねて、自分の持っている物をすべて活用することで、新たな学びや気づきを得ることができると思います。そのため、私は日々の「積み重ね」を大切にしています。

また、私は次のステップに進むためには今後どうしていくべきなのかのような行動をとるべきなのかを日々考えながら生活しています。看護では特に「根拠」が求められます。実習でも、常に根拠を求められ、それに頭を悩ませるばかりです。しかし、私たちが行うとしている看護というものは殆ど「根拠」に

基づいてなされるものです。そのため、私は毎日の学習では「なぜ」と思ったことに関してその日のうちに調べたり、質問したりして解決し、自分の学びに繋げていくことを意識しています。

今後も「積み重ね」と「根拠」の2つを大切にしながら、将来自分のなりたい看護師になれるように今を大切に努力していきたいと思っています。



成人看護実習

現在の学びと成長 ～友人との充実した日々～



看護学科1年 高橋 留依

天使大学に入学して約3カ月が経ちましたが、日々の忙しい生活にも徐々に慣れ、毎日がとても充実しています。入学した当初は、憧れていた看護師を目指すためにこれからの学習に期待を膨らませていましたが、勉強とと

もにアルバイトやサークルをこなす難しさを身に染みて感じました。現在履修しているほとんどの教科に予習と復習課題があるため、多くの時間を勉強に当てる必要がありました。その中で、アルバイトやサークルを行うことは体力的に困難に感じることもありましたが、物事の優先順位を考えながら、時間を有効に使うことを意識して生活しています。また、健康を維持するためにも睡眠時間は多く確保するように心がけています。アルバイト後に課題を行うと、どうしても就寝時間が遅くなってしまい、頻繁に体調を崩してしまうことが何度もありました。学校での空きコマや休み時間なども有効に使うことで、時間に余裕ができ、心にも余裕が持てるようになりました。

天使大学は授業でのグループワークが多く、現在では交友関係がかなり広がりました。授業はもちろんですが、友人との会話を楽しみに毎日学校に向かっていきます。これから辛い出来事を共に乗り越えていく仲間を大切に、勉強だけでなく友人との関わりをモチベーションとしながら、これからも看護師になるという夢に向かって前進していきます。



基礎看護実習

準備の重要性と自分の性格について



栄養学科4年 吉野 琉花

新型コロナウイルスが流行していて、授業のほとんどがリモートで行われた1、2年生。対面授業が再開され、初めて学外実習を経験した3年生。そして気がつければ、就職活動と学外実習、卒業研究に国家試験勉強と、やるべきことが次々とやってくる4年生になり、時間の速さに驚いています。

忙しい日々の中で、私は今、準備の重要性について学んでいます。

私は、大学3年生から国家試験の過去問題を解き始めていたお陰で、1月にあった模試では分かる問題が多くありました。模試の結果を受け、自分の苦手な分野が見えたり、4年生になってからの勉強を安心して進められたりと、4年生を良い形で始めることができました。国家試験に合格し、気持ちよく本学を卒業し、就職するために、国家試験対策を十分に行うことで、試験本番に実力を発揮したいです。

また、私は、几帳面すぎるのが原因で、自分を追い込んでしまうことがあります。過去に、無意識に自分を

追い込んでいて、限界を迎えてしまったことがありました。やるべきことが多くある4年生ですが、趣味を楽しんだり、友人と話したりして、リラックスできる時間を確保し、自分の心と体の健康を維持したいと考えています。



在宅栄養管理論

新しい環境での学び ～好奇心の追求～



栄養学科1年 佐賀 海姫

大学生となって約3か月が経過しました。一人暮らしや大学生活にもだいぶ慣れてきたように感じます。大学での勉強は、1年次から自分の専門の勉強ができるところがとても魅力的です。自分の好きなことを学べる環境に来たからには、4年間の学びを通し食や栄養という専門分野を極めたいと強く思っています。

話は変わりますが、今の時代で求められるものはその人ならではの個性だという言葉聞いたことはありますか。例えばモノに関していうと、いいモノを作ればOKというような時代ではなく、いいモノであることは当然という時代になりました。人に関しても同様で、周りの人と差をつけるためには自分ならではの個性で自分の価値を高める必要があります。私はその土台となるのが自分が所属する学科の勉強であると考えます。それに追加して自分が興味のあることや好きなことを極めていけば、それはもう十分なその人の個性となります。

私は大学生になって自分の自由な時間が増えたことから、アルバイトや、以前から興味を持っていた動物愛護ボランティアを始めました。また自らサイトを作り家庭教師を行うなど、雇ってもらうバイト以外でお金を稼ぐ経験も現在進行中で行っています。このような活動では色々な人との関わりの中で多くのことが学べますし、責任感やコミュニケーション能力が身についたと実感しております。また、問題を解決する大変さも実感し、現状をより改善するため自分で考えて行動に移す力が必要

になることを学びました。ボランティア団体「野良猫もみな家族だよ／RABBITONALY」では、ねこさん・うさぎさんの保護やお世話、譲渡会の実施による里親探しなどを行っています。こうした活動に参加し、微力ながらも殺処分を減らすことに貢献できることを心から嬉しく思います。小さな命を守るため、物資のご支援やご寄付の程よろしくお願いたします。

私はこれからもチャレンジ精神を忘れず、自分のやりたいことにたくさん挑戦していきたいと考えています。もちろん、大学生として今しか出来ない遊びやサークル活動にも力を入れつつ、日頃の勉強を頑張りながら充実した大学生活を過ごしていきたいです。



ボランティア先にて

2024年度天使大学・大学院入学者選抜結果

2024年5月1日

看護栄養学部

◆看護学科

種別	定員(名)	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率(受/合)
指定校推薦	40	6	6	6	6	1.0
公募制推薦		38	38	37	37	1.0
社会人	40	0	0	0	0	-
一般		180	177	88	46	2.0
共通テスト利用	20	120	120	62	14	1.9
総計	100	344	341	193	103	1.8

◆栄養学科

種別	定員(名)	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率(受/合)
指定校推薦	44	2	2	2	2	1.0
公募制推薦		34	34	34	34	1.0
社会人	36	2	2	1	1	2.0
一般		39	39	39	29	1.0
共通テスト利用	10	34	34	27	0	1.3
総計	90	111	111	103	66	1.1

大学院 看護栄養学研究科

◆看護学専攻 博士前期課程

種別	定員(名)	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率(受/合)
推薦	14	4	4	3	3	1.3
一般Ⅰ期		9	9	7	7	1.3
一般Ⅱ期		2	2	2	2	1.0
3月期(在宅看護CNS)		0	0	0	0	-
総計	14	15	15	12	12	1.3

◆看護学専攻 博士後期課程

種別	定員(名)	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率(受/合)
一般Ⅱ期	2	8	8	6	6	1.3
総計	2	8	8	6	6	1.3

◆栄養管理学専攻 博士前期課程

種別	定員(名)	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率(受/合)
一般Ⅰ期	3	3	3	3	3	1.0
一般Ⅱ期		2	2	2	1	1.0
総計	3	5	5	5	4	1.0

◆栄養管理学専攻 博士後期課程

種別	定員(名)	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率(受/合)
一般Ⅰ期	2	0	0	0	0	-
一般Ⅱ期		2	2	2	2	1.0
総計	2	2	2	2	2	1.0

大学院 助産研究科

種別	定員(名)	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率(受/合)
推薦	10	12	12	11	11	1.1
一般Ⅰ期	15	11	11	8	6	1.4
社会人Ⅰ期		0	0	0	0	-
一般Ⅱ期	5	8	8	2	2	4.0
社会人Ⅱ期		0	0	0	0	-
総計	30	31	31	21	19	1.5

新理事長挨拶

藤学園は2024年4月1日に、天使学園と合併して「藤天使学園」となりました。それは、学園が100年目の歩みを踏み出したその時でした。2025年、学園は創立100周年記念を祝います。

天使学園は「マリアの宣教師フランシスコ修道会」という、世界的に有名な女子修道会によって創設されました。札幌には1908年から派遣されており、天使病院で医療活動を行ってこられたことをご存知の方も多いことでしょう。その修道会が札幌で専門学校を開設して看護教育を始めたのは1947年で、それは、藤学園が専門学校を開設して教員養成を始めたのと同じ年でした。

この二つのカトリックの女子専門学校誕生は、本道における女子高等教育の歩みの最初の一步でした。短期大学制度が発足した1950年に、両校とも短期大学を開設して専門学校を廃止し、藤は教員養成に力を入れ、天使は看護師養成に力を尽くしました。また、戦中から戦後にかけて、子どもたちの栄養状態が悪くなったため、子供たちの成長に問題があり、厚生省は栄養士養成に力を入れようとしたので、藤と天使の両短大は栄養士養成も始めました。

1961年に藤は四年制大学を開設し、北海道の女性たちに大学教育への道を拓きました。英文学科と国文学科の2学科のみ、入学定員は各学科50名の小さな大学。校舎は1925年創設の高等女学校以来の校舎で、古く貧しいながらも磨き上げられた黒光りする床の趣のある校舎でした。

藤と天使の合併という考えは、1997年に一度ありました。その年に天使の修道会「マリアの宣教師フランシスコ修道会」の責任ある立場の方々が数名、藤の修道会の責任あるシスターたちを訪ねてこられました。修道会の方針変更により病院や学校などの施設運営の責任から手を引いて、宣教地応援の仕事に力を注ぐことになったので、藤と天使が合併して、四年制大学として看護

教育を続けてほしい、と打診を受けたのです。当時はまだ北海道内ばかりか日本国内でも、四年制大学での看護教育はそれほど普及していなかった時代です。全国、全道での先駆的な構想で、天使のシスターたちの先見性です。

その時点では、私たちの修道会には看護教育の経験がないことを理由にお断りしたのです。しかし、その直後に当時の地主司教様から、藤と天使と一緒にあってほしいと言われ、司教様としてもそれを望んでおられることがわかりました。ただし、その当時はすぐにお引き受けできない事情もあったため、時を待ちながら過ごしておりました。そのうちに状況も変化してきましたので、当時の天使の近藤潤子理事長様と私との間で、カトリック学校の将来について折々話し合いをしてきました。地主司教様の後を継がれた勝谷司教様も、温かくその経過を見守ってくださっていました。

私たちが天使のシスターたちや司教様から託された使命は、天使のカトリック精神の承継でした。合併後の学園名称は両方を合わせて「藤天使学園」。学園の建学の精神は、双方ともカトリック精神に基づく人格教育を土台としてきましたので、天使学園がこれまで大切にされてきた「愛をとおして真理へ」という、簡潔かつ意味深い表現を、新たに歩み出した学園が承継することを決めました。

天使大学はこれまで通り、愛深く有能な看護師・保健師・助産師・管理栄養士を養成し、健康で幸せな社会づくりのために貢献します。また藤女子大学は広い視野と愛に根差した教養ある女性たちを育成し、さらに子どもたちから大人までの地域社会の、真のウェルビーイングに貢献する女性たちを育てます。

学園の皆様で力を結集して、よりよい学園づくりを目指してまいりましょう。今後どうぞよろしく願いいたします。

学校法人藤天使学園理事長 **永田 淑子**

あなたの声をお聞かせください

学報「天使」では、読者のみなさまの声を生かした誌面づくりを目指しています。

ご意見、ご感想、取り上げてほしい話題等ございましたら、下記あて先までお寄せください。

あて先/〒065-0013 北海道札幌市東区北13条東3丁目1-30 天使大学広報委員会 tel.011-741-1051 fax.011-741-1077



天使大学

看護栄養学部/看護学科・栄養学科
大学院/看護栄養学研究科・助産研究科(専門職学位課程)

〒065-0013 北海道札幌市東区北13条東3丁目1-30
TEL.011-741-1051 FAX.011-741-1077

第37号 2024年8月1日発行 天使大学広報委員会

<https://www.tenshi.ac.jp>

